

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

新 滑稽  
身 振 姿  
上



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19  
JAPAN  
TAMURA



そんが 成りたマ 大あつと  
うろつと ちんちん ちんちん  
あつと ちんちん ちんちん  
あつと ちんちん ちんちん  
あつと ちんちん ちんちん  
あつと ちんちん ちんちん  
あつと ちんちん ちんちん  
あつと ちんちん ちんちん

あつと ちんちん ちんちん  
あつと ちんちん ちんちん  
あつと ちんちん ちんちん  
あつと ちんちん ちんちん

卧龍園

たいこ持 松  
龜六

おらうとつとまげしき  
おれどつとまげしき  
まぎれてうせみりケエリリ  
ヤヤヤ

サテ  
ナトワでさこましき  
おらうとつとまげしき  
おれどつとまげしき  
まぎれてうせみりケエリリ  
ヤヤヤ



イヤまろくおめく葛葉が  
おらうとつとまげしき  
おれどつとまげしき  
まぎれてうせみりケエリリ  
ヤヤヤ

目録

三笑亭  
可楽速

きとひの年礼

料理茶屋の娘

あつこつ

泣き笑ふ成りし始

おみさん成始

婆さん小桶の一曲

金持成始

泣き君

後篇 壽字仁那喜

出枝

きとひの年礼

出立三十四日又目方くつと大づの男あり  
あつこつとあつこつ丸の丸の丸の中  
三月あつこつ丸の丸の丸の中  
織みぢんの布子の形は回角を  
字のはの草をさう  
三尺と一丸草のさげ  
なまこ入は椀で削つた  
きとひさんごあつこつ丸の丸  
俵の楫で楫舟の楫の楫  
おみさんごあつこつ丸の丸  
ねあつこつ丸の中あつこつ丸の丸  
あつこつ丸の中あつこつ丸の丸



ヘイだんお。あけまいてはけつくるな表で  
ござりのまひにせりくるをさう水替やうまひ  
け風い掛りうきんへおとくまひでござりませ。  
掛りうきん公画のハ掛きさうござり字だこよ  
いさうまへおらうとあり掛りぢ橋の  
金花でござりまひ是忠臣義の忠の  
字とこもまひさう。巻戻ハ四十七文ジ  
能らこしやまのいさうとんあつと忠ウ

わらうの忠の字あうみ十みよ買あさうと  
口のなう移くあうとイヤおしやうきんあも  
おとくまひをあげまへやうおらうとまひ  
けさう双紙の巻圖ハ画こので水替やうまひ  
おしやうまひでおめよかひまへやうねけつ  
大の字がああ字とどいておりまひは  
久の字がああつてこいておきよさうら  
かきませすうとこで大の字あがこいつと

祓をよ思つてぞれぞろとまゝに  
あけると田圃で六の字と八の字が久の  
字を切ころしてあげまはるを  
いふ字ろかけつけてまてまてとや  
まへ子エ色くはヨリマアうな  
字でござりまはるへ五奴とや字  
でもすと町のうらぎ屋れのも  
字が書てござりまはる

此ちそこのおさんどんらん  
うらぎ屋れとやあや  
まはるせはんもまて徳平と申  
祓かせい牛してまて三月ハ  
あまするア子エ押さるる  
まはるくさんをつれていつ  
さんハあやさんまはる言  
ナニうらなものうおれが

あやまらうあんでん  
や新田の

勘をさんごろうあつも嬢介ハ田ツをく乃  
源移むさむごろうあつ出らうごまあつけ  
移くそつで笑つて押りまけイヤ子傳んおつて六  
地礼の由供ハまきさむごろうあつごまあつけ  
三つと糺所でごろうあつと移くごつてせ  
去親ハあんどんいせ屋でごろうあつごまあつけ  
喉ごごさんごろうあつごまあつけごまあつけ  
てつて大ごまあつけごまあつけごまあつけ

かせバ旦那去親の善ハちん保ごまあつけ  
まごごごうんやりでごろうあつごまあつけ  
かあつけそつ所の卵科医者をとんご  
よふよ毎日登をりあつけごまあつけ  
押りまけごまあつけ押りまけごまあつけ  
かせバ旦那ごまあつけごまあつけごまあつけ  
ついで長ごまあつけイヤあんどんいせ屋  
戸前にはとまあつけごまあつけごまあつけ







移くなり〜おまへさん 経年屋が張  
 てもあのよふよふもいふいふでまかせん  
 ちつとおあぐんあさふま〜おいよおまへ  
 さん二ういで強いておるあア。お家トわア  
 ござんません。もんを肉のそのでござん  
 ますト ニういのわうと。コレサ 梅ヤ梅ヤニヤ。  
むいそへキナキナで。  
 リヤンごあちつとあづつよあ移人よ

おまへが〜つと

あ〜〜おのわけ  
おまへ たいま〜  
おまへ たいま〜  
おまへ たいま〜  
 移すけ〜つと  
あ〜  
 がんよなむれ〜  
いん どの〜  
あ〜 まれもの〜



ヘイヨウ 是ハ木男の 糸合がらうまの  
らんこおハ 菱芝 辰の 田中といふもので  
らあすわうがらわよめをわがはいてる  
よめいじろよめをアだれど 鬼妻さんか  
どあしよめおせよやまが 不男とよめので  
う。同業あいにむるの。イヤ又知らうまに  
是ハちやいづれをいしても 山姥さん  
菅秀方の 柳がうらうらよきよめといふ首ハ  
アとも極く。あつが考く 婦人の 筋ひ  
切ことんくもぬぐひもそれかうハまな  
ああきぎいアう極くの。あんとる 新橋で  
そあ出〜〜。○ぬく。こつやアたまやかま  
おが女とらうのわうぞかまよぬごらう。イヤ女と  
いむらんども 表のさうやハ 女中ハ  
だうぢうな 表としてあさくのおいづも  
そい〜〜たてようぢうとあさく〜〜として



ごいりかきで喜<sup>や</sup>エめかしころうがのり  
いつごやーこの目<sup>ひ</sup>持<sup>もち</sup>の救<sup>きう</sup>落<sup>らく</sup>一<sup>いち</sup>響<sup>きやう</sup>や  
はあいでぢらころーこのうちくーやうづめ  
やん仙<sup>せん</sup>ころうんどーッあよいらた  
えきろー。喜<sup>や</sup>エとあの女<sup>に</sup>房<sup>ぼう</sup>とあんで  
飛<sup>と</sup>とこもどぶる<sup>と</sup>を<sup>を</sup>屋<sup>や</sup>のわうとんよ。ヤ  
と<sup>と</sup>船<sup>ふね</sup>のあうがどめー。おらしてどい  
もごい<sup>も</sup>のせごい<sup>の</sup>とんも<sup>と</sup>船<sup>ふね</sup>の<sup>の</sup>ん<sup>ん</sup>

あいつアやつをう女<sup>に</sup>房<sup>ぼう</sup>をやめて喜<sup>や</sup>で  
らうきくの火<sup>ひ</sup>をけもやうが後<sup>ご</sup>ー。はる。  
そーてもい喜<sup>や</sup>エもあの女<sup>に</sup>房<sup>ぼう</sup>もどいよ  
喜<sup>や</sup>せエ<sup>せ</sup>が<sup>が</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>小<sup>こ</sup>使<sup>し</sup>と<sup>と</sup>る<sup>る</sup>よう<sup>よう</sup>あ  
ほ<sup>ほ</sup>と<sup>と</sup>ぐ<sup>ぐ</sup>く<sup>く</sup>や<sup>や</sup>と<sup>と</sup>一<sup>いち</sup>斗<sup>と</sup>ぢらくも  
喜<sup>や</sup>ころうよ。ト<sup>ト</sup>う<sup>う</sup>も<sup>も</sup>喜<sup>や</sup>て<sup>て</sup>ハ<sup>ハ</sup>九<sup>く</sup>葉<sup>は</sup>く

ト<sup>ト</sup>う<sup>う</sup>も<sup>も</sup>喜<sup>や</sup>て<sup>て</sup>ハ<sup>ハ</sup>九<sup>く</sup>葉<sup>は</sup>く  
ト<sup>ト</sup>う<sup>う</sup>も<sup>も</sup>喜<sup>や</sup>て<sup>て</sup>ハ<sup>ハ</sup>九<sup>く</sup>葉<sup>は</sup>く

遊笑歌子成下り

ねしゆつさきつむきさけ  
 小豆んのお徳をうめ  
 ろりもすまはな客一き  
 柿をちの中ころころ  
 くるくぬちあを一粒  
 帯ハニぢうどんの二三  
 びをばばあはちよいとまき  
 ちりりしけで三つが一の  
 ついあうらみい麻の隙子  
 中まれの  
 まらうを  
 ままを  
 ちまを



司これハこみ山町三丁目  
 天神さぬとちあめサア  
 申かれと的ごのいさ  
 やま。仙公ありの麻も  
 切りいとら。どらもチ  
 ござエせまらどとら  
 かのうらうけ。結やさん  
 去年のうちとをうらあ

ぢうよらまめで生いておらう。げせりや  
ちうい<sup>あつて</sup>屋敷<sup>あつて</sup>さう。おあ人のりうくよ難<sup>あつて</sup>を  
やつものまじやとあらんあされいも。  
いまど<sup>あつて</sup>物<sup>あつて</sup>あつていづのどんど  
かまじうちうあつていめんて。金<sup>あつて</sup>さん  
どぶ秘<sup>あつて</sup>しきうの尺<sup>あつて</sup>バときくつる秘。  
きのふ大<sup>あつて</sup>作<sup>あつて</sup>さゆであんけとらけ。  
今<sup>あつて</sup>あつていづいやせんあつてい

お家<sup>あつて</sup>帳<sup>あつて</sup>の二<sup>あつて</sup>なもあつておらう。あつていづ  
ろ<sup>あつて</sup>。徒<sup>あつて</sup>ら<sup>あつて</sup>の<sup>あつて</sup>中<sup>あつて</sup>ハモシ<sup>あつて</sup>匠<sup>あつて</sup>大<sup>あつて</sup>作<sup>あつて</sup>てあつていづ  
き秘<sup>あつて</sup>く<sup>あつて</sup>が<sup>あつて</sup>あ<sup>あつて</sup>つ<sup>あつて</sup>の<sup>あつて</sup>だ<sup>あつて</sup>し<sup>あつて</sup>で  
あつていづやあつていづ。仙<sup>あつて</sup>さうあつていづ<sup>あつて</sup>ん<sup>あつて</sup>地<sup>あつて</sup>主<sup>あつて</sup>  
さゆのあつていづ人をあつていづのム、  
さうよ柳<sup>あつて</sup>さんよあつていづさんあつていづも  
秘<sup>あつて</sup>ものう。秘<sup>あつて</sup>をあつていづけいづて  
きあつていづあつていづ。秘<sup>あつて</sup>さゆの文字<sup>あつて</sup>



横  
松  
甚

むらりよすこしあれのうちのお紙<sup>紙</sup>解<sup>解</sup>をて  
毎日<sup>まいごと</sup>らちやアをうごまうましそい  
そうごご。ち<sup>ち</sup>り<sup>り</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>るといふもんごう  
お<sup>お</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ん<sup>ん</sup>ご<sup>ご</sup>と<sup>と</sup>や<sup>や</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>  
そんあ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>ハ<sup>ハ</sup>七<sup>七</sup>面<sup>面</sup>ご<sup>ご</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>葉<sup>葉</sup>ご<sup>ご</sup>う<sup>う</sup>  
とんとつ<sup>つ</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>ふ<sup>ふ</sup>何<sup>何</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>う<sup>う</sup>  
お紙<sup>紙</sup>解<sup>解</sup>さ<sup>さ</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>づ<sup>づ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>る<sup>る</sup>も<sup>も</sup>紙<sup>紙</sup>也<sup>也</sup>  
ち<sup>ち</sup>の<sup>の</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>そ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>色<sup>色</sup>好<sup>好</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>か<sup>か</sup>な<sup>な</sup>紙<sup>紙</sup>解<sup>解</sup>目<sup>目</sup>で<sup>で</sup>も

ぬらうッ。あんを仙さんそのえ緒くす枝  
かつてあてあんまえるのうッアあやまの  
地紙ぢがみよなるうのなるやどむの中うちよ一いつせつ  
まゝなるものハ移うつりのき記しを一のけつつが  
杉すぎややどよなる。むぎさうの揚あがりハ中うち廊りやうで  
賣うる天てん神じんさむや紋もんぼく一のそん  
こよあやま。白しろさうのこハさうを  
けこのうらよなる。さううと押おもやアまこ

げこのうらとぶらうさやうぐらうぐら  
ぬつて破魔弓のえいぶるよそむこりサ  
たごそ第の穴をくぬさやうぐ持拍びの  
らうまよあるなぞはかんしんかそのごとの  
あしうらんやアぢぢのるぢぢぢぢぢぢぢ  
厩へけあぢぢハちるウヤとごこのぢぢして  
今トヤアつらぢぢぢぢぢぢぢハ厩ぢぢぢぢぢぢ  
まかニぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

そうごのサくくううの炭とくごうう  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
金さんくえさんぢぢハだんぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢのぢぢぢぢのぢぢぢぢのぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢの子ぢぢのぢぢぢぢハぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
よるぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

押く坊の整あてまごて揚ら場よし  
ひらろがごうしろへ出まつてゐるの  
おろく、墨ごころだけ建てるころ  
えんをびきみせんのをもちいせんからな  
なまぬもぞご中のごご今かきゆひ  
所の垢ごうとあつちやアごつとをを  
すてご氣で飛ごころあんののりあ  
福く解花が漢村屋の墓ごうよあつて

よああごんごのイあんどあひちじを  
ちうよまきこのごのの札ごせんご  
ののちごごあご黄紙へりけをり  
赤ご紙ハあごあんどア字ごごご移  
あんど極ごりしきごうつご細工人  
都繁ごごちごご新作ごあご初ごり  
ごごごごご書ちやア目よたご移へ下  
口のうちごあんど菱雅久扇橋東屋錦を

正三まぎゆう鬼丸きぎゆう。里樂りりやく。圓生えんじやう。壽樂じゆりやく。さうりきよ  
うぎく。出るの。トをん。スケよ。りりて。まよせ  
つぶさせ。やろ。うう。あらん。ナニ。可樂かりやくが。まよ  
樂りやく。く。あ。や。た。ま。も。移うつ。り。の。ま。可樂  
るん。ぎ。ア。う。ろ。ど。かん。け。く。を。あ。の。す。ら。  
ま。く。ら。ア。ま。ま。ま。で。ま。ぐ。よ。を。ろ。り。や。ま。  
いち。う。も。唐たう人じん。よ。い。も。よ。福ふく。ご。い。と。云い。歌うた。ゲ  
マ。く。く。ま。ぐ。よ。を。あ。り。ま。ん。あ。あ。り。て

かん。また。て。こ。ま。う。で。都みやこ。を。う。り。ん。せ。い。中なか。と  
その。時とき。の。ま。あ。く。く。あ。ん。の。ま。う。さ。も。移うつ。く。  
唐たう人じん。が。い。ま。を。登のぼ。り。あ。う。く。こ。い。と。あ。こ。と  
い。ま。あ。さ。お。の。ぐ。も。ま。う。こ。り。う。お。百ひゃく。定ぢやう。一いち。  
あ。る。ま。う。ま。い。ま。う。く。あ。ん。あ。ぐ。り。て。九く。り  
る。ま。で。魚いさな。文ぶん。の。ん。で。居い。る。ア。あ。ん。一  
魚いさな。文ぶん。と。く。バ。仙せん。人じん。い。は。ま。あ。な。ら。け。く  
一いち。日ひ。香か。よ。あ。の。を。移うつ。く。お。ん。友とも。遊あそ。び。の















よつてたあてぶつのでこくろくせんせいのいひは  
 かつこいさうのいひあつて下駄やの改むる  
 義履やの橙秀さんも来ててア。こも  
 かくもおけいよあづけみせとほれく  
 いつこあがまのいあまッてうあまッてうで  
 向ふすあがあつていあやアあつねとひ  
 りんよ肉ちう乳さうきよ。オヤひぢさん  
 あづかお押へ人のあつてア。小桶を

ぶつはひてコレんあせ入痛が出まふ  
 あんやうこく八百やでもあつて  
 うおハあんごあんごあつてあつて  
 りんよはの屋うねあつてあつて  
 ぞうは口があつてあつてあつて  
 やめてドリヤ一風あつてあつて

全持成ちぐわ

作若松の付州稲垣  
 後第の由目よりけり



かき大板小屋のあつたが、  
いけねごころうらなひ  
引こむ昔を又もやの  
中おつてもはの  
トわねよの  
けがすと

あつたが、  
いけねごころうらなひ  
引こむ昔を又もやの  
中おつてもはの  
トわねよの  
けがすと

人心身振八景 畢



古今秀句落し新

富士

青空や不二日本のたて烏帽子とりし句があらが  
ナントあんな大きな志がーがまーあうぬ装束ふとまう  
なりうとりをそむる唇一人の男一人の女をのせあ  
るをいひまさん又國ひついで周防といふ所がある

梅見

春風さんみんとまは梅見のりてイスねもう梅とあると

世界の野人出うける也イヤモウうるさのりくー柳糸

先生のなきうー可哉春夏秋冬いつあれと春の梅  
見ふまゝくゑうーほサさればこそ其角も五元集小

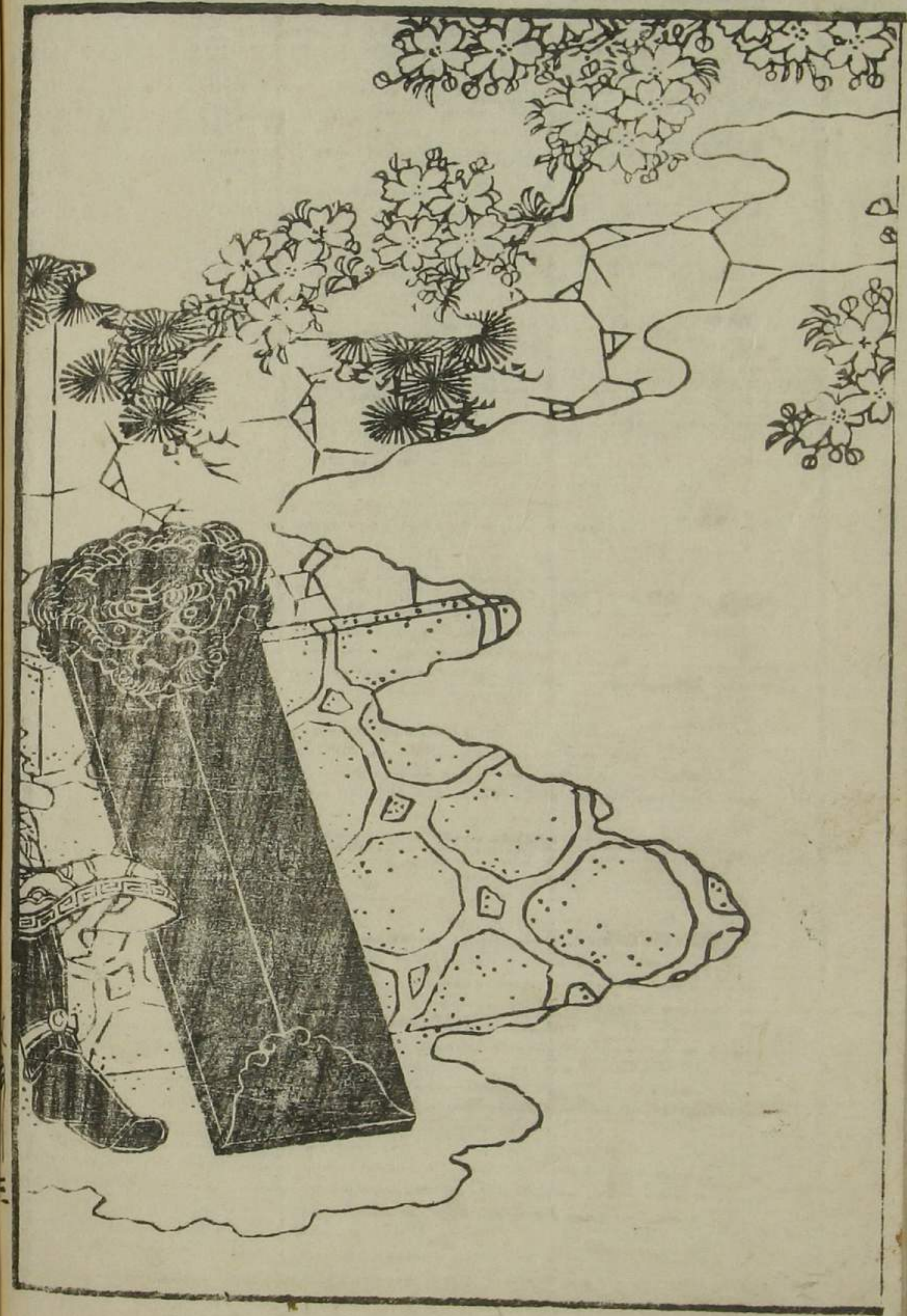
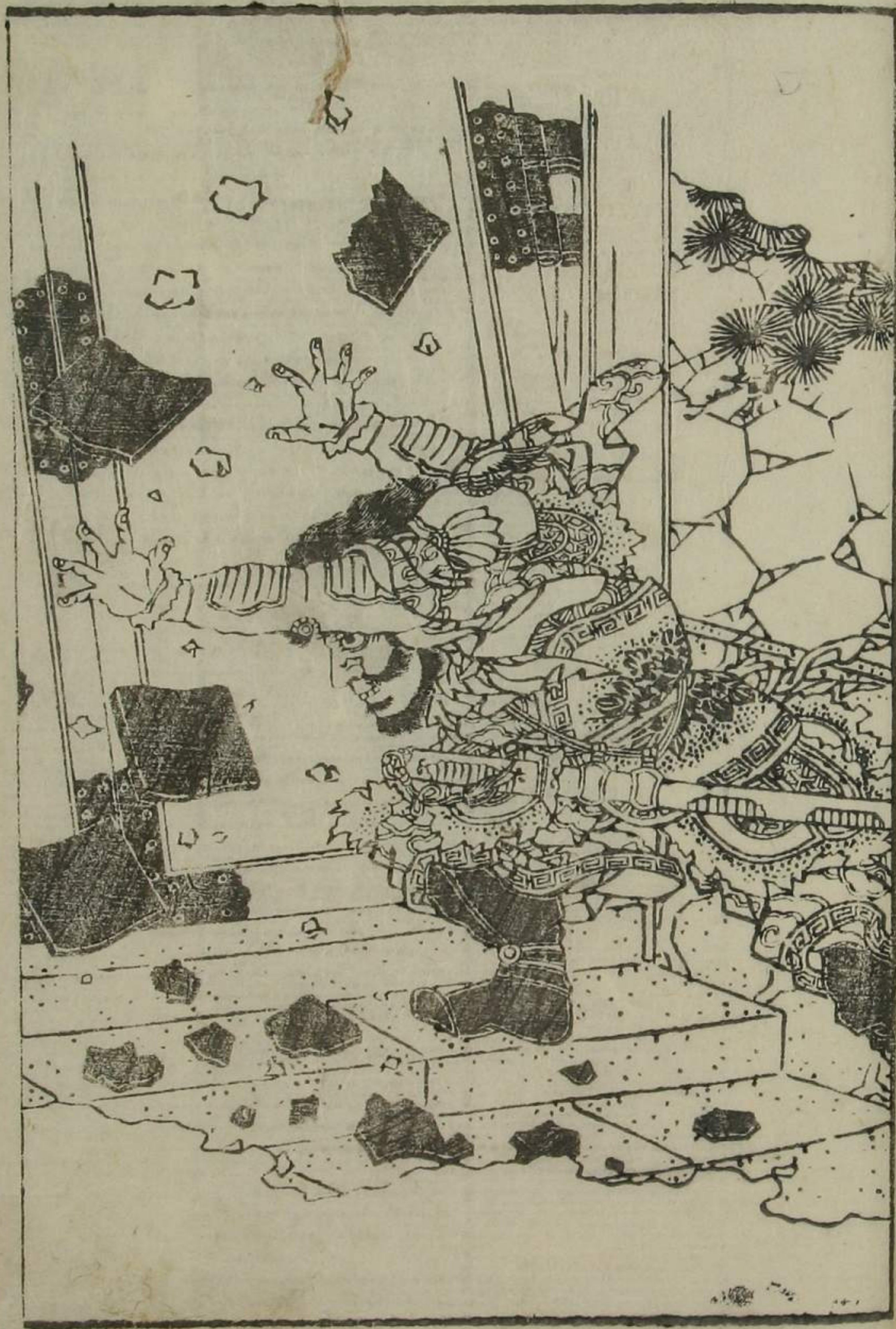
梅が香やと食の味も取うほとといふ名句を載せ中よ  
柳糸 時小そのと食の味でもひ出ー中よ食同と食小

座のまゝ小宿やーヤ三人寄合ていふを渡中ーと一人  
の宿ありーがひあハハやびッー橙めーとんごらめんを

ハテナ春忌ハあんぎあつちのりぎうーセツ梅や葉の紋つぎ







吉原をうり月夜うま「ト」其角の匂を潤色——ち  
けへねども吉原の傾城ハ後があつてらとら——一人の  
同友「その夜ハ傾城の後あつてらを出動考ハちと解——  
通すハ子ハテ遊書をしるさん又女弟の儀とむ子の角  
あれハ晦日小月か出るとしひやせ

○松竹梅

南無天満大子の木あり松と梅「ト」立南の匂がしらア  
ちがうしるハ知らねれど黄糸の紐ををると牛うひの舎

人ハ三ッ子の三人梅王松王梅丸ぶるを黄糸相ゲ大子の  
木あり梅ハられねらうア「ト」ををると牛うひの梅丸ハ  
腹切と枯き——と

○骸骨

先生あぞハ遊里の方ハは不埒ととらまはるがらあめり  
仲之町でさるげしやをんま——とよやど黄く——のものぞ  
ひびきか——とよやぬものやうな黄糸ををるとハ糸の仙人  
も糸をぬき外へちりしりこものそらみるる——ひびきか

先生

「まうとくさやうゆめゆめいびりぬき公のやうな、あきの肉

を

みん

「あつ」の婦人を、ついでに、さやうゆめゆめ、あつめさうがせとか

ま

迷ひとりゆめゆめ、さやうゆめゆめ、あつめさうの、あつめさうを、あつめ

とくさやうゆめ

東坡先生も、あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ、あつめさう

あつめさう

あつめさうの、あつめさうの、あつめさうの上を、あつめさうゆめゆめ、あつめさう

あつめさう

あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ

あつめさう

あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ

あつめさう

あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ

でも、あつめさうの、あつめさうの、あつめさうの上を、あつめさうゆめゆめ、あつめさう

あつめさう

○大晦日

五元集「大晦日、あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ、あつめさう

あつめさう

あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ

あつめさう

あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ

あつめさう

あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ

あつめさう

あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ

あつめさう

あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ

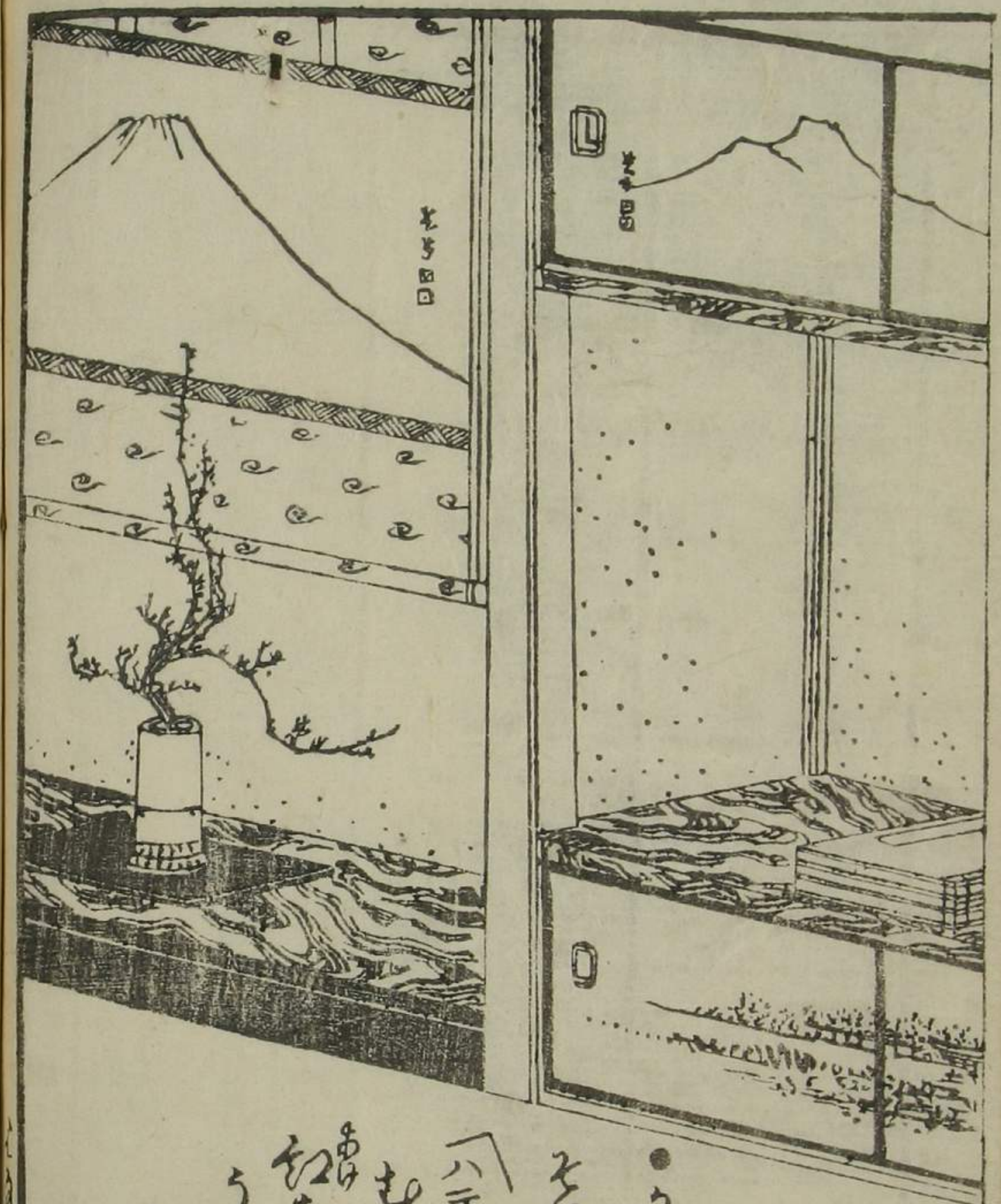
あつめさう

あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ

あつめさう

あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ、あつめさうゆめゆめ

あつめさう



不二筑波

夕ハハミキ  
 先家の筑波山とれハ  
 嵐雪のゆづる家の  
 筑波山よりうき山  
 朝日のきりのがらハとうもろこしと  
 又一人がナシクアアの朝日よりうき筑波山の  
 夕家のナシクアアの朝日の方からの上はよすく赤いものハ  
 夕もたすでらナシクアアんとらうても筑波の夕ハア

うき山  
 それハ又ナシク  
 ハテ  
 夕を  
 うき山と  
 夕ハア

夏をよそへ中へ草をよそへしと云はるる人  
 三つやをらへ人もあはれむのそむく名をサ  
 てきりいよのさすへく一のせよな掛ふおき  
 まじらちかまへ今をよそへしと云はるる人  
 蛙

○蛙

古池や蛙花に水の音とらへ箱の白がとうもろ  
 うありていよのせは事蛙の白かとうもろイヨ  
 蛙

夏をよそへ中へ草をよそへしと云はるる人  
 三つやをらへ人もあはれむのそむく名をサ  
 てきりいよのさすへく一のせよな掛ふおき  
 まじらちかまへ今をよそへしと云はるる人  
 蛙

○雪

雪の日やふ若者らが居るのと云はるる人  
 薄き風ひまやいよも兼用の白道たるもの  
 雪







杜若

あや 不用、拭茶さきさき、杜若とく、看板をゆ、私見世の意、  
茶ハ湯をにえ、口入る、それハ湯まの中より、杜若の花、  
一丁、座真、お茶、つぐと書、あ、一、つ、れ、を、追、つ、る



茶店見世用とあり、くれ、或人、  
さうぞ、茶をの、ち、あ、あ、あ、あ、  
ふ、の、ふ、杜若ハ、出、ま、い、  
女、の、幽、霊、出、ら、れ、バ、是、ハ、  
の、と、ま、り、ま、か、の、  
茶店ハ、ゆ、  
ヤ、イ、ノ、事、也

あ、の、内、の、茶、を、せん、と、  
杜若、が、あ、る、ら、の、み、是、ハ、ま、い、と、  
し、る、小、杜若、ハ、ま、い、思、ひ、  
ま、い、母、の、幽、霊、が、ま、い、  
後、が、り、い、ま、人、と、傳、  
の、ま、い、だ、ん、ご、の、を、  
し、て、ま、い、る、お、い、ち、男、  
や、い、ま、い、事、を、ゆ、  
茶、を、し、て、マ、杜若、  
ま、い、の、心、母、の、幽、霊、が、ま、い、  
マ、茶、店、ハ、ま、い、と、その、や、ア、ま、い、の、事、  
法、事、の、意、の、り



あ、の、内、の、茶、を、せん、と、  
杜若、が、あ、る、ら、の、み、是、ハ、ま、い、と、  
し、る、小、杜若、ハ、ま、い、思、ひ、  
ま、い、母、の、幽、霊、が、ま、い、  
後、が、り、い、ま、人、と、傳、  
の、ま、い、だ、ん、ご、の、を、  
し、て、ま、い、る、お、い、ち、男、  
や、い、ま、い、事、を、ゆ、  
茶、を、し、て、マ、杜若、  
ま、い、の、心、母、の、幽、霊、が、ま、い、  
マ、茶、店、ハ、ま、い、と、その、や、ア、ま、い、の、事、  
法、事、の、意、の、り



てまありたり鬼ぞびる「それいかに Sakeru」にて SKE  
てま角を中へまは

○夕三

夕三や田をまわりの神あり「と」の角名白の徳  
あはるのありしつひは夕三の徳をいへる人びと  
あはる傘よりあつたての徳ありて「奥」よりこ  
ゆりまをうやく 権助強をいへる人びとありて  
あはる居「沙汰せま」ト 隠居の奥「奥」より入りて

まはる「え」サテは沙汰をいへる「ま」の権助ありて  
夕三ぞ 権後「い」つて傘を「な」はむき「り」リヤ  
え「げ」おまのまゝに「が」かまへて「ま」の夕三が  
あはる「て」傘の「ま」を「あ」る傘を「伯父」でも「あ」る  
「さ」めや「傘」あつた「ま」の夕三が「い」へる  
あはる「ま」のまゝに「い」へる「隠居」の奥より「教」を出し「ユレ」  
権助「ま」の「傘」と「い」へる「ま」の夕三が「い」へる  
あはる「ま」の「傘」を「か」かして「い」へる「ま」の夕三が

THC 100%



二丁  
紙をわけて紙をわけてもだうしゆも縄でうづげて  
のまゝ(わけ)をわけてもだうしゆも縄でうづげて  
かまの(わけ)をわけてもだうしゆも縄でうづげて  
と(わけ)をわけてもだうしゆも縄でうづげて  
奥で(わけ)をわけてもだうしゆも縄でうづげて  
をわけてもだうしゆも縄でうづげて  
わけてもだうしゆも縄でうづげて  
紙の(わけ)をわけてもだうしゆも縄でうづげて

紙をわけてもだうしゆも縄でうづげて  
かまの(わけ)をわけてもだうしゆも縄でうづげて  
と(わけ)をわけてもだうしゆも縄でうづげて  
奥で(わけ)をわけてもだうしゆも縄でうづげて  
をわけてもだうしゆも縄でうづげて  
わけてもだうしゆも縄でうづげて  
紙の(わけ)をわけてもだうしゆも縄でうづげて



火鉢も病まのつるゝは「ヤ」つらつをぬつたも程  
 がある火鉢も病まのつらつと「シ」の縁もゆるりも病まのつ  
 「ヤ」つらつも「シ」の縁もゆるりも病まのつらつと「シ」の縁もゆるりも病まのつ  
 つらつ病まのつらつをぬつたも程

○花の山

事「これ」火鉢も病まのつらつをぬつたも程  
 「ヤ」つらつも「シ」の縁もゆるりも病まのつらつと「シ」の縁もゆるりも病まのつ  
 つらつ病まのつらつをぬつたも程  
 事「これ」火鉢も病まのつらつをぬつたも程

事「これ」火鉢も病まのつらつをぬつたも程  
 「ヤ」つらつも「シ」の縁もゆるりも病まのつらつと「シ」の縁もゆるりも病まのつ  
 つらつ病まのつらつをぬつたも程  
 事「これ」火鉢も病まのつらつをぬつたも程

一最「イヤ〜」と考え（〜）らう何んでも見んはそのたが  
 てまじりのせう事「まふまじり」のせうのせうがハテあうろ  
 あうとやて何あのせうのせうのせうのせうのせうのせうの  
 のとふの「けい小使無用の山」と書くとれがまて居あはこ  
 そのれの「小使を仕掛しま〜」と大あ方をちをておまりませう  
 「クアそれであま〜」と小お使無用のれが定まり〜  
 判つ書まであるらう  
 古こ今い秀しゅう句く落らく〜  
 断た終しゅう



